

2025年（令和七年） 7月25日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

## ■ 概況

当週（7月17日～23日）の国際石油市場は、米国と主要各国の関税交渉の難航・不透明感観測を中心に、週末から翌週の4営業日続落など、やや軟化した。

NYのWTI原油先物市場は、7月17日、4営業日ぶり反発の67.54ドルで始まり、その後、4営業日続落、23日には9月物で65.25ドルで終わった。

また、中東産パイ原油/東京市場（9月渡し）も、前週（7月10日～16日）は70.10～71.50ドルの範囲で推移したが、当週は、7月17日69.80ドル、18日71.00ドル、22日70.40ドル、23日70.50ドルだった。

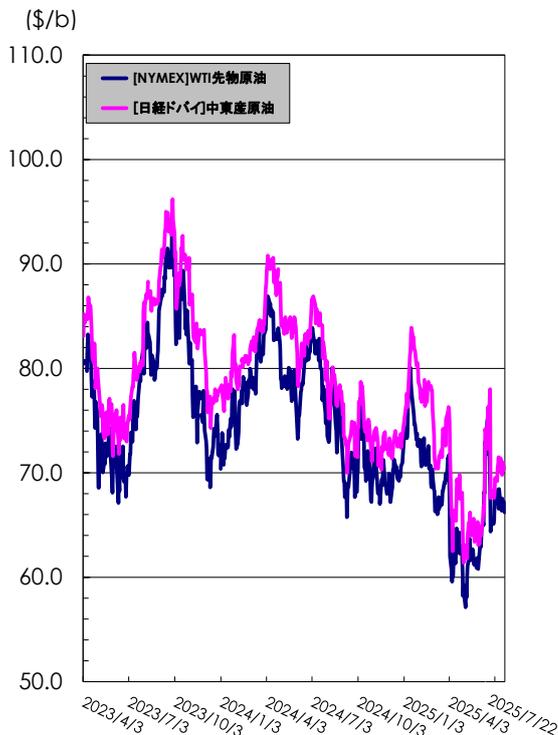
対ドル為替レート（TTM）は前週（7月10日～16日）145.89～149.05円の範囲で推移したが、当週は、7月17日148.51円、18日148.69円、22日147.47円、23日146.48円だった。

財務省が7月17日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、6月下旬の原油輸入平均CIF価格は63,782円/KLで前旬比661円/KL高、ドル建てでは70.24ドル/Bで前旬比0.35ドル/B高、為替レートは1ドル/144.34円。また、6月月間の原

油輸入平均CIF価格は63,602円/KLで前月比4,564円/KL安、ドル建てでは70.21ドル/Bで前月比5.03ドル/B安、為替レートは1ドル/144.02円。

そのような中で、7月22日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.4円高、軽油も同0.4円高、灯油は同4円高（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は173.6円だった。7月24日～30日の燃料油補助金の支給額は、予想金額が175.2円となったため、「予防的な激変緩和措置」が実施され、ガソリン・軽油の場合10.2円（前週比1.1円減）、灯油・重油の場合5.1円（同0.5円減）となった。

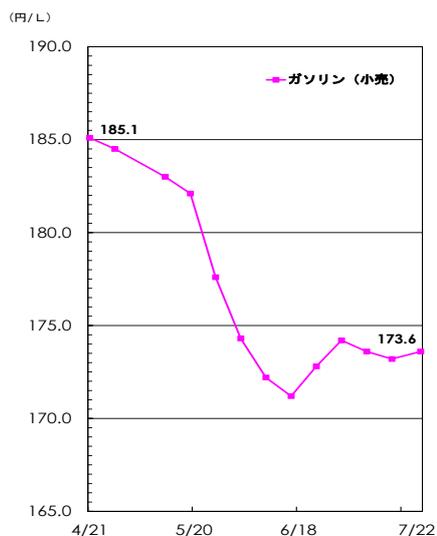
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	7/13～7/19	2,392 ▲76	▲-
	トッパー稼働率 (%)	"	69.1 ▲2.2	▲-
	原油在庫量 (千kl)	7/19	11,804 ▼-411	▲-
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	7/22	70.40 ▼-1.00	▼-13.7
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	7/21	67.20 ▲0.22	▼-12.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月下旬	70.24 ▲0.35	▼-17.70
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	63,782 ▲661	▼-22,846
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	144.34 ▼-0.76	▲12.28
	外国為替TTSレート (¥/\$)	7/22	148.47 ▼-0.45	▲10.07



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	在庫	7/19	1,611 ▼ -18	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 7/15 ~ 7/21	78.0 → 0.0	▼ -3.4
価格	(TOCOM/中部)	7/18	76.0 ▼ -2.0	▼ -5.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/22	173.6 ▲ 0.4	▼ -1.8

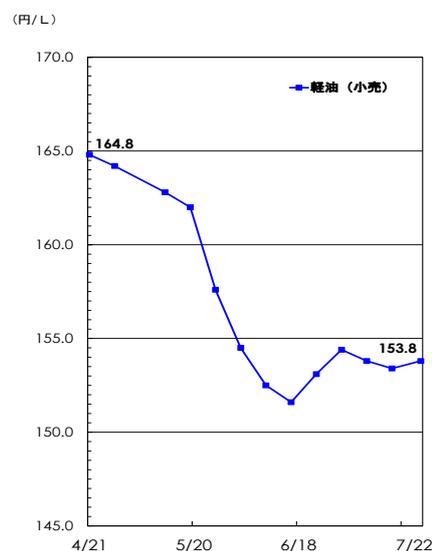
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

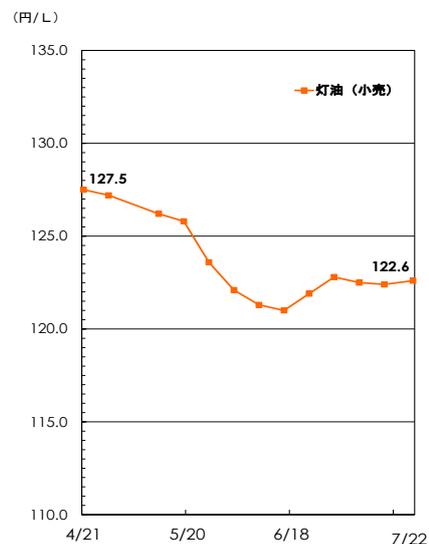
軽油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	7/19	1,476 ▼ -51	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 7/15 ~ 7/21	81.8 ▲ 0.5	▼ -1.6
価格	(TOCOM/中部)	7/18	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/22	153.8 ▲ 0.4	▼ -1.2

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	7/19	2,200 ▼ -8	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 7/15 ~ 7/21	81.0 → 0.0	▼ -0.9
価格	(TOCOM/中部)	7/18	82.0 → 0.0	▲ 2.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/22	122.6 ▲ 0.2	▲ 5.2



## ■ 関連情報

### 1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（7月10日～16日）のNYMEX・WTI先物市場は、66.38～68.65ドルの範囲で推移した。

当週7月17日は、イラク北部のクルド人支配地区の油田設備がドローン攻撃を受けたとの報道があり、前日のイスラエルによるシリアのダマスカスへの攻撃と相まって、中東地域の緊張が悪化、また、米国の6月の小売売上高が0.6%増と市場予想を上回り、さらに、米国の新規雇用者統計も堅調、米国景気の底堅さが確認されたことで、4営業日ぶりに反発した。8月物終値は前日比1.16ドル高の67.54ドル。

週末18日は、米国・欧州連合（EU）間の関税交渉の難航が伝えられ、トランプ大統領もEUからの輸入品への15～20%の関税賦課を発言、反落した。ただ、EUは、最低石油価格引き上げを含む対口経済制裁強化を発表、下値は固かった。8月物終値は0.20ドル安の67.34ドル。

週明け21日は、6月の景気先行総合指数が市場予想を下回り、関税政策の不透明感も相まって、小幅に続落した。ロシアのノバク副首相はEUの制裁強化は影響がないとし、米国の今回の制裁見送りもあって、効果は薄いとの見方も多かった。8月物終値は前営業日比0.14ドル安の67.20ドル。

22日は、米国とEU・インド・日本等主要国間との関税交渉が難航しているとの観測が強まり、世界経済への先行き懸念の拡大から、3営業日続落、7月初め以来の安値を記録した。この日納会日の8月物終値は同0.99ドル安の66.21ドル。

23日は、米国の原油・ガソリンの在庫は前週比取り崩されたものの、米国と各国との関税交渉の不透明感からわずかに続落した。米国は、22日夜の日本との合意に続き、EUとも15%で近く合意するとの観測報道もあった。この日から取引の中心限月となった9月物終値は0.06ドル安の65.25ドル。

### 2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）の、7月23日発表の18日現在の米国在庫週報によれば、米国の原油在庫は前週比320万バレル減、ガソリン在庫は同170万バレル減と、いずれも市場予想（各160万バレル減・90万バレル減）を上回るに取り崩しとなり、好調な米国の石油消費を表す結果となった。

EIAによると、7月21日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.9セント安の1ガロン3.121ドル（123.3円/ℓ）と2週ぶりの値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比5.4セント高の1ガロン3.812ドル（150.6円/ℓ）と3週連続の値上がり。

ベーカー・ヒューズ社によると、7月18日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比2基減の422基となった。

### 3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年07月13日～07月19日に休止したトッパー能力は57.1万バレル/日で、前週に対して9.9万バレル/日減少した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は239.2万klと、前週に比べ7.6万kl増加。前年に対しては10.1万klの増加。トッパー稼働率は69.1%と前週に対して2.2ポイントの増加、前年に対しては2.9ポイントの増加となった。

## 4 国内/製品在庫量

7月19日時点の在庫は、ガソリン、灯油、軽油、A重油で取り崩しとなり、ジェット、C重油は積み増しとなった。

ガソリンは161.1万kl、前週差1.8万kl減。前年に対しては8.5万kl多い。

灯油は220.0万kl、前週差0.8万kl減。前年に対しては50.8万kl多い。

軽油は147.6万kl、前週差5.1万kl減。前年に対しては10.4万kl多い。

A重油は73.7万kl、前週差1.3万kl減。前年に対しては6.4万kl多い。

C重油は161.8万kl、前週差0.4万kl増。前年に対しては10.1万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (7/19)	前週 (7/12)	前週比	
ガソリン	1,611	1,629	▼ -18	(-1%)
ジェット燃料	869	813	▲ 56	(7%)
灯油	2,200	2,208	▼ -8	(-0%)
軽油	1,476	1,527	▼ -51	(-3%)
A重油	737	750	▼ -13	(-2%)
C重油	1,618	1,614	▲ 4	(0%)
合計	8,511	8,541	▼ -30	(-0.4%)

## 5 国内/元売会社製品卸価格

7月15日～21日のドル建て中東原油価格は前週比値下がりしたが、為替の円安も進み、元売会社の卸建値は据え置き横ばいに近いものと見られる。ただ、7/24からの補助金は、「予防的な激変緩和措置」が0.2円で、定額補助金と併せ、前週比1.1円減の10.2円(揮発油・軽油の場合。灯油・重油は5.1円)となったが、補助金込みの実質卸価格は、値上がりとなった模様。

## 6 国内/製品小売価格

7月22日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円高の173.6円、軽油も同0.4円高の153.8円、灯油は18%ベースで同4円高の2,207円(1%ベースでも0.2円高の122.6円)。ガソリンは3週ぶりの値上がり、軽油も3週ぶりの値上がり、灯油も3週ぶりの値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが31道府県、横ばいが5府県、値下がり11都県だった。全国最安値は愛知県の166.7円、その次は宮城県の167.6円であった。他方、最高値は鹿児島県の183.4円。最も値上がりしたのは沖縄県(前週比1.8円高)、最も値下がりしたのは三重県(同0.6円安)だった。

次回調査時(7/28)のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (7/22)	前週 (7/14)	前週比	直近高値
レギュラー	173.6	173.2	▲ 0.4	2023/9/4 2025/4/14
灯油	122.6	122.4	▲ 0.2	08/8/11
軽油	153.8	153.4	▲ 0.4	08/8/4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。  
次回 (2025第17号) の公表は、8/1 (金) 14:00 です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

#### ②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

#### ④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。